

〇〇さん。 〇〇くん。 ⇒ はい。

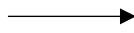
〇〇さん。



はい。



〇〇くん。



はい。



sa n ku n ha i

さん くん はい

さん くん はい

さん くん はい

【解説】

(1)「出席をとる。返事をする。」という場面を取り上げました。

生徒はふだん教室で目にしている光景なので場面理解は容易だと思います。

(2)使い方の例

①導入

教師：「(生徒の名前)さん or くん。 はい。」 間をおいて 「わかる？」

生徒：目で聞いたことがあるという表情をする。

教師：「(生徒の名前)さん or くん。」と言ったあと、生徒に手を向けて「はい。」と言い、「はい」という返事を促す。

*学校により、男女の区別なく「さん」で読んでいる場合もあるので、その場合は「くん」を修正ペンで「さん」に直してください。

②展開A～「さん・くん」の区別をしている学校

教師：イラスト男女に生徒が知っていそうな名前を付けてください。(母語記載で可)

そして、その名前を「さん・くん」付けて呼びます。

名前を呼んだあと、イラストを指し、男女の違いに気づかせます。

わからなかったら下のイラストを使って補足をします。

まず、先生が「さん・くん」を付けずに名前を読み上げます。次に敬称を付けて読みます。何人も言ってみせれば、そのうち男の場合は「くん」女の場合は「さん」だと気づいてくるはずです。分かったようなら、教師が名前を言ったあと「さん」か「くん」かを生徒に言わせます。イラスト出典の「いらすとや」からダウンロードして絵カードにしてもよいでしょう。

ひらがな「さん・くん・はい」の文字指導をします。

展開B～「さん・くん」の区別をしていない学校

場面理解ができたら、そのまま、ひらがな指導に入ってください。

あまり時間を使う必要はありません。

ひらがな指導も終わったら別の単元を教えましょう。

